

# 『世界最高の知性』E・トッド氏が提案 日本は核武装を！

古くは「ソ連崩壊」、新しいところではアメリカ大統領選挙での「トランプ大統領誕生」を言い当てたフランスの歴史人口学者、エマニエル・トッド氏が「国家基本問題研究所」（櫻井よしこ理事長）の創立10周年記念シンポジウムに登壇し、日本がとるべき道について提言を行った。

エマニエル・トッド氏は1951年生まれ。パリ政治学院卒業後、イギリスのケンブリッジ大学で博士号。1976年に発表した著作『最後の転落』で人口統計学手法を使い、近未来の「ソ連が崩壊」することを予測して話題になった。



フランスの歴史人口学者  
エマニエル・トッド氏

また、「人口動態」や「家族構造」に着目した独自の視点で「アラブの春」やイギリスEU離脱などを見通す、など、現代「世界最高の知性」としてその発言は国際的に注目を集めている。

今回の「国家基本問題研究所」（櫻井よしこ理事長）創立10周年記念シンポジウムでは、

「世界の近未来を予測する～日本は生き残れるのか？」を演題に掲げ、基調講演を行った。

◆「日本の基本的な問題は人口減少です。経済的、政治的、社会的な面では日本は非常に安定している。ヨーロッパから来ると、それは一目瞭然です。日本には常に一定の安定性と活力があります」

◆「一方、ヨーロッパはほとんどマヒ状態に陥っています。

ヨーロッパの主要な大国はドイツですが、矛盾にとらわれている。巨額の貿易黒字を上げる輸出大国であり続けたいのに人口減少に直面しているのです。ドイツの対応は日本とは全く異なり、（ドイツ

# 世界の近未来を予測する～日本は生き残れるのか？

## New Global Challenges and Japan

### 国基研 創立10周年シンポジウム

#### JINF 10th Anniversary Symposium

主催：公益財団法人 国家基本問題研究所 後援：産経新聞



は) 大量の移民を常に受け入れ続けている。その結果、国内のバランス、安定性が崩れています]

には人口的不均衡を生み出すし、何より中国のメンタリティーが古いということを意味しています]

### 中国は「もろい大国」

「中国はどうか。アメリカと戦略的に対立しており、巨大な人口を抱え、経済成長率が高い。しかし私は、非常にもろい大国だと思っています。出生率が急落し、急速に高齢化が進み、そして出生性比の問題がある。生まれる女兒100人に対し、通常の国では男児105～106人になるので、中国では118人。女兒の選別的中絶が行われています。これは長期的

「さらに先進国と比べて高等教育進学率が低い。中国はたしかに経済的・軍事的な大国ですが、新しい現代的な世界ではない」

### 核拡散を促すアメリカ

また、話は現在の外交問題にも及んだ。  
「アメリカは奇妙な行動を取っています。イランという核兵器を諦めた国との合意は離脱して、北朝鮮という核保有国とは交渉するのです。北朝鮮が非核化を

進めるというのはばかげた夢となった。アメリカと問題を抱えている国々も、核を手放す方が危険だという教訓を得たことでしょう。アメリカは今、核拡散を促すような行動をしているのです」

**日本とロシアの最近の協調関係は素晴らしい。**

**自前で「核武装」すべきだ。アメリカの「核の傘」はジョークだ。**

「日本について、2点を指摘したい。ロシアとの協調はすばらしい（安全保障上の）補完になります。日露戦争、また1945年の対日侵攻のことは知っています。しかし合理的な外交とは、過去の対立を乗り越えることです。独仏間でできたことは、日露もできと思っています」

「アメリカの非合理的で突発的な行動は旧世界に混乱をまき散らしています。日本にとってアメリカとの同盟は、オバマの時代なら容易な選択でした。しかしあまり合理的でない同盟国に頼るのは、もはや合理的な選択とはいえません。核武装が本



質的な問題になってきていると思います」

「フランス人にとって核兵器とは戦争の反対（戦争抑止力）で、戦争を不可能にするものです。核兵器はただ自国のためだけに使うものです。ドイツを守るためにフランスが核を使うことがないように、アメリカの核の傘なんて私はジョークだと思っています」

「私はフランス人の左派かつ平和主義者で、戦争は嫌いです。しかし私が日本の核武装について考えてほしいと提言するのは、別に強国になれということではなく、（国家間の）力の問題から解放されるからです」

### 本当に中国が脅威なら…

その後に行われたシンポジウムには、**国家基本問題研究所の櫻井理事長と田久保忠衛副理事長が登壇。**

「ロシアの信頼性」や、「中国の脅威度」の評価について疑問を向けられたトッド氏は、こう答えた。

「日本にとって、アメリカよりロシアが





大切になると言っているわけではありません。ただ、本当に危機が重篤な場合、価値観の相違など忘れなければならない。第二次大戦で筋金入りの反共主義者だったチャーチル英首相は、独ソ戦が始まるとロシアと組んだ。本当に中国を脅威に思っているのなら、それをやらなければなりません」

「何年前か、日本の首相の靖国神社参拝をめぐる議論が起きたとき、私はこう思いました。日本人、あるいは日本の首相はもうあの神社について語ることも参拝することもやめて、**現実の軍事力を整備すればいいのに、と**」

「私が大嫌いなのは戦争です。なぜ戦争になるのか。勢力均衡が破綻したとき

です。そうした場合、再武装をしないことが戦争の近道になる。私は核兵器を持つのがいいと思いますが、隣に拡大する勢力があるのなら、再武装するしかないのです」

◆ワイズが以前から書いている「パワー・オブ・バランス」論は間違いではなかったようで、安心した。さらに、一歩進めれば、人間の判断は「躊躇」する場合がある。AIを上手に使って核武装をして「日本に手を出したら刺し違えて死ぬことになりますよ」というべきだろう。しよせんは覚悟があるかどうか、「哲学の領域」なのだ。